

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

学校名	吉野ヶ里町立東脊振中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県学習状況調査において、県平均を上回ることを目指し、今後も継続して授業改善と家庭学習の充実を図る。 ・道徳教育の推進と道徳の時間の内容を充実させ心の教育を推進し、自分や他の人の大切さを認め、自らの夢や目標の実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。 ・今後も、家庭との連携を大切に、いじめの実態把握と早期対応を徹底する。困ったことや悩みを相談できるように、生徒との日々の関わりを通して、お互いの信頼関係を築く。 ・不登校対策については、教育相談部会(毎週開催)、「不登校生徒支援ネットワーク連絡会(毎月開催)」を活用し、教育相談部会や連絡会の充実を目指す。S C、S S W、外部機関等と連携をとりながら支援を継続する。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、次年度も、長時間労働の解消、健康管理体制の充実等の課題について具体的な改善策を検討し、職員の共通理解を図る。

2 学校教育目標	「 未来へ ～知性・感性・耐性を、共に高める生徒の育成 」
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 将来へ向けた確かな学力を身につけさせる 2 道徳教育等により、豊かな心を育てる 3 生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す 4 安全で生徒が明るく活動する環境をつくる 5 業務を改善し、教職員の資質・能力を高める
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標 中間評価

(1) 共通評価項目				中間評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●職員アンケートで「めあて」「まとめ」「振り返り」の場面で、ステップ2までに到達した授業を実践できたと回答した教員80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランに基づき、ほとんどの職員が「めあて」「まとめ」がステップ2に達した授業を実践している。「まとめ」についてステップ2に到達している割合が53%なので、研修会等を通して徹底を図る。	
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「各教科の授業がわかる」と回答した生徒80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定する。	B	・全学年の授業では90%以上の割合で「めあて」「まとめ」「振り返り」の設定が行われている。「授業が分かる」と回答した生徒が80%を越えた教科が多いものの、すべての教科で達成できていない。今後は、各教科で検証を進め問題解決につながる指導を行う。	吉田、宮崎、川口
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて「自分の道徳性が高まっている」と回答した生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒88%であった。 ・9月に計画通り情報モラル講演会を実施した。	川添、松下、深川
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校がいじめ防止に取り組んでいると回答する生徒80%以上 ○いじめ防止について組織的対応ができていないと回答した教員80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・きめ細やかな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図る。	A	・3年生では、いじめ防止に取り組んでいると回答した生徒は90%であった。100%にするため、生徒が悩みを相談しやすい環境づくりとして、昼休みに教室巡回などを行う。	小出、中尾、川口
	○生徒行動目標「東中生みんなで頑張るHGS」よい挨拶、時間の管理、自問清掃の実践	○挨拶ができる生徒80%以上 ○時間を守り行動できる生徒80%以上 ○自分で考えて掃除ができる生徒80%以上	・全校、学年、学級、部活動などすべての教育活動を通じ、習慣化を図る。 ・学校行事や体験活動に向け、集中した取組を行う。 ・常に教師が清掃場所に立ち会い、清掃に率先	A	・9月に実施したアンケートで「裏書豊かによい挨拶」に肯定的な回答をした生徒の割合は74%、「時間を守り行動している」は93%、「精一杯自問清掃を行っている」は93%。 ・学校行事や体験活動においては生徒主体で集中して取り組み、計画通り事前指導、振り返り活動を行っている。	深川、松下、川添
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎将来の夢や目標を持つ生徒80%以上 ○物事に粘り強く取り組む生徒70%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	・3年生では、約80%の生徒が将来の夢や目標を持っていると回答していた。しかし、2年生ではそれぞれ65%、75%程度である。3年生は高校進学に向けて、全員の具体的な目標設定の時間を設けて100%を目指す。粘り強く取り組む生徒は全学年80%以上	小出、中尾、川口
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上 ○朝食を摂る生徒90%以上	・毎月1回、保健だよりやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解と啓発を行う。 ・家庭科や学級活動の授業を通して、朝食の大切さを再認識させる。	A	・「健康に食事は大切」と考える生徒は94%であり、前年度と比較して4%減少した。 ・朝食をとって登校する生徒は91%で前年度と同じだった。 ・給食の残菜調査を5月と9月に行った。5月の残菜平均量では、565gだったが、9月調査では890gで、325gの増加だった。残菜平均量が600g以下になるように、継続して生徒会で計量をしたり、学級での話し合いを呼びかけたりして改善を図る予定である。	原、吉田、寺崎
	○健康や体づくりについて意識づくりの促進	○部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組む生徒80% ○感染症予防を徹底している生徒90%	・部活動の顧問を複数体制とし、常に臨場指導を行う。 ・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、保護者会と連携を図る。	A	・各部活動の顧問を複数体制とし、臨場指導を行うことができた。 1. 2年生ともに90%以上が積極的に取り組んでいる。 ・1学期に、各部活動で保護者会を行い、その中で顧問より指導と適正なあり方について共通理解を図ることができた。	牟田、小出、淵上
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・長期休暇を生かした、夏季休暇5日の完全取得と年休5日以上の完全取得 ・教師のタイムマネジメント意識の改革 ・教材の共同作成	B	・毎週水曜日を提示退勤日とするため部活動休業日として固定した。 ・夏季休業中に学校閉庁日を4日間設定した。 ・夏季休暇は全職員が5日間取得した。年休の取得も計画的に行っている。 ・タイムマネジメントについては更なる意識改革が必要である。 ・教材の共有が図れている。 ・時間の上限遵守については、年度当初にかなり超過時間が多かった。	教頭
	○より適正な部活動の推進と健康管理体制の充実	○教育委員会が示す部活動ガイドラインや「部活動活動方針」に基づき、適正な部活動を目指す ○教職員のメンタルヘルス対策を推進する	・部活動の休業日を「部活動活動方針」に定め、実施を徹底するとともに、保護者に周知する。 ・管理職は時間外勤務が多い教職員に対する産業医(学校医)による面接を奨励する。	A	・部活動ガイドラインを遵守し、平日1日、週休日1日の部活動休業日を設けている。また、会議の行われる毎週水曜日を部活動休業日として設定し、保護者の理解も得ている。 ・時間外勤務が多い職員には、勤務時間の削減を個別に呼びかけている。	教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	
○不登校対策の推進	○不登校及び不登校傾向の生徒に対する体制づくりの促進	○教育相談主任を中心「つなぐ」働きかけをキーワードに、全職員が共通理解したうえで、不登校の生徒や家庭に働きかけることにより、不登校生徒の縮減を図る。 ○新たな不登校生徒を出さないための未然防止対策に努める。	・「電話作戦」や「担任+1」の家庭訪問、保護者同伴の「別室登校」など、保護者と話す機会を積極的に作り、保護者の意向を聞きながら、チームで対応していく。 ・自己有用感を高めるための出番づくり、承認や称賛を与える。 ・学校適応指導教室や関係機関との連携を図る。	A	・月に1回ネットワーク連絡会 ・毎週の部会を通して各学年の状況を確認する。 ・全職員に報告することで、共通理解を図る。 ・ネットワーク連絡会を通して、外部を含む連携を図り、複数での対応を行う。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・